

海と陸と

物流博物館では、昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵していますが、これまでに約100本に及ぶ記録映像のデジタル化を完了しました。このたび、デジタル化を記念して、その中からテーマごとに作品を選び、上映会を行うこととなりました。今後は月ごとに上映作品を変え、3月まで毎月1回の上映会を開催する予定です。色彩や傷等を修復し、新たに甦った過去の映像をぜひご覧ください。



「海と陸をむすぶ」より



上：「600トンフローティング・クレーン」
右：「晴海埠頭倉庫」より



2017年 **12月17日(日)** 第1回：10時30分～12時00分
第2回：13時00分～14時30分
第3回：15時00分～16時30分

※下記作品を1日3回上映します。予約は不要です。 ※参加費は無料ですが、別途入館料が必要です。

<上映作品> ※すべてデジタルリマスター版による上映です。

①「海と陸をむすぶ」

1960年／カラー・ワイド／30分／（製作：電通映画社）／企画・製作：日本通運(株)
製作：齊藤久／脚本：八木仁平／演出：野田真吉・長野千秋・山本敏之・武井義尚
内容：日本通運の海運業務を紹介したPR映画。日本各地の中心的な港を取材した大作。

海に囲まれた日本に不可欠な、海と陸を結ぶかつての物流現場の映像を振り返ります。

②「600トンフローティング・クレーン」

1964年／カラー／9分／製作：東京テレビ映画(株)／企画：日本通運(株)
内容：600トンの吊り上げ能力を誇った、当時世界最大といわれたフローティング・クレーン「日本号」（日本通運(株)所有）の初仕事を紹介した作品。

③「晴海埠頭倉庫」

1965年／カラー／34分／製作：輸送経済新聞社／企画：日本通運(株)
製作：小平亨／脚本・監督：松本俊夫
内容：1965年3月に東京港・晴海埠頭に完成した東洋一の近代倉庫、日本通運・晴海埠頭倉庫を紹介した作品。同倉庫の役割は、首都東京にそれまで間接的だった海上輸送を直結させた点に意義があった。

今後の開催予定

- 第7回 1月28日(日) テーマ：「戦後の輸送革新」
- 第8回 2月25日(日) テーマ：「超重量品輸送の世界・2」
- 第9回 3月25日(日) テーマ：「高度経済成長と生活革命」

【開館時間】 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【休館日】 毎週月曜日・毎月第4火曜日(これらが祝日・振替休日の場合開館)、
祝日の翌日、2017年12月11～15日・12月25日～2018年1月9日
【入館料】 高校生以上200円／65歳以上100円／中学生以下無料
*団体20名以上半額

